

## にほん あす かんが 日本の明日を考える

ルック・イーストとともに、シンガポール・マレーシアの<sup>りょうこく</sup>両国がかか  
ける政策に“グリーン アンド クリーン”があります。

みせ なか おおめ み くに みち たばこ  
店の中では、大目に見ているようですが、どちらの国も、道ばたに煙草の  
す す ごまんえん ばっきん いっぱんしよみん げっしゅう やくし  
吸いがらを捨てると五万円の罰金をとられます。一般庶民の月収が約四、  
ごまんえん いっ げつぶん きゅうりょう は  
五万円だそうですから一か月分の給料がとんでしまうわけです。つばを吐  
いても同じように罰金を取られますから、街はほんとうにきれいです。罰金  
せい い ひと  
制だからきれいなのだと言う人もいます。

かんこうち あたみ やま す わたし かぜ ひ やま か じ  
観光地である熱海の山に住む私にとって、風のある日など、山火事の  
げんいん たばこ な す きょうふ たね うつく かいがんせん な  
原因となる煙草の投げ捨ては、恐怖の種です。また、美しい海岸線に投げ  
す かん ぶくろ おも  
捨ててあるジュースの缶やビニール袋にもなさけない思いをしています。  
こうち おな なや かか  
こうしたことは、どこの観光地でも同じ悩みを抱えているらしく、シーズン  
なるとまちのボランティアや小中<sup>しょうちゅうがくせい</sup>学生<sup>せいそうふうけい</sup>の清掃風景がテレビのニュース  
ほう じもと ひと まち いと うつく  
などで報じられますが、では、地元<sup>じもと</sup>の人が、わが町<sup>まち</sup>を愛し美しくしなけれ  
ばなりません。そうしたときはじめて、「町<sup>まち</sup>を汚すのなら町<sup>まち</sup>には来ないでく  
れ」と誇りをもって観光客にも言い切れるのでしょうか。

シンガポールもマレーシアのクアラルンプールも、ごみ一つ<sup>お</sup>落ちていない

うつく まち もんく おお かんこうきやく おとず  
美しい街、というのがうたい文句となって、多くの観光客が訪れていま  
す。シンガポールとマレーシアを見てきて、それがたとえ罰金制であっても、  
まち うつく くに  
街が美しくなり、国のイメージアップとなっているのは素晴らしいことだ  
おも ばっきんせい しゅうかん ばっきんせいど  
と思いました。いまは罰金制でも、いつかそれが習慣となり、罰金制度が  
なくなっても、それが国や自分たちの生活をうるおすことにつながると、  
ぜんいん かんが くに す ひと わたし  
全員が考えたとき、あの国にはごみを捨てる人がいなくなるはずだと私  
おも ひとりひとり じかく  
には思えるからです。それにはまず、一人一人の自覚がたいせつです。

こくど たいせつ おも ところ  
グリーンは国土を大切に思う心、そしてクリーンは、この国づくりに、  
ひとりひとり ところがま たいせつ よ おしよく  
一人一人の心構えが大切だと呼びかけています。シンガポールには汚職が  
ありません。

み ところ おしよくてんごく にほん いちこくみん た  
でも見えない所では……などと、汚職天国の日本の一国民としては、多  
しょうげ せわ かんが にかい しゅざいりょうこう ほんもの  
少下世話な考えをもっていたのですが、二回にわたる取材旅行で、本物な  
しん こうむいん おしよく はっかく  
のだと信じざるをえませんでした。とくに公務員の汚職は、発覚したら  
いちだいじ しょうらい き す  
一大事、その将来ははっきりと切り捨てられてしまうのです。

おさないみえこ せいき い きみ にほん あす かんが  
(小山内美江子『21世紀を生きる君たちへ 日本を明日を考える』より)